

精神保健(看護学科 2 年次)の授業紹介

～精神科病院全廃のイタリア視察報告を聞く機会を得ました！～

平成 23 年 7 月 19 日 (火) の講義に、沖縄県からイタリア視察に行かれた、沖縄県精神障害者福祉会連合会事務局長の高橋さんが来てくださいました。

世界的にも有名な精神科病院を全廃にしたイタリアの精神医療保健改革について、多くの写真や資料を交えて、わかりやすくお話をしてくださいました。高橋さんのお考えや提案、我が国との比較などもあり、学生たちは非常に興味深く聴いていました。

精神保健の講義はちょうど世界と我が国の精神医療の歴史を学び終えたところで、学生の中には「精神科病院の無いイタリアでは、精神疾患の人たちはどうなるの?」「社会復帰するためのサポートはどうなってるの?」など国内外の精神医療の現状に関する疑問や「社会復帰施設を増やすべき!」「精神疾患の人たちを深く研究することで救うことは可能では?」などの見解もフツフツとわき出ていたところでした。今回実際にイタリアに行って精神科病院を全廃が成り立つ現状を実感として得て来られた高橋さんから発せられるパワーは学生たちに大きな影響を与え、「拘束や鎮静薬を使わないなんてすごい」「日本もイタリアのようになるべき」「そんな支援ができる看護師になりたい」などのコメントに現れていました。

「その財政はどのようになっているのだろう」という学生のコメントもありましたが、もちろん“ローマは 1 日して成らず”で、長い年月をかけて、イタリアの医療システムの在り方や家族や地域との連携や協力、ボランティアの取り組み、医療専門職者の意識や技術の進歩や、ハード面の整備など、様々な人々の多角的な取り組みの結果が重なりあって現状につながったということも少しずつ見えてきました。



穏やかな中に、熱く強い思いをもつ高橋さんのお人柄がひしひしと伝わってきました。

沖縄発の精神医療改革！を目指す高橋さんとも協同し、私たちも看護教育の場からより良い方向性を追究していきたいと考えています。貴重な機会を得たことを心から感謝しております。

精神看護学 (鈴木、伊礼、平上)



「バザーリア医師のような改革者になり、沖縄から精神医療を変えてゆきたい！」